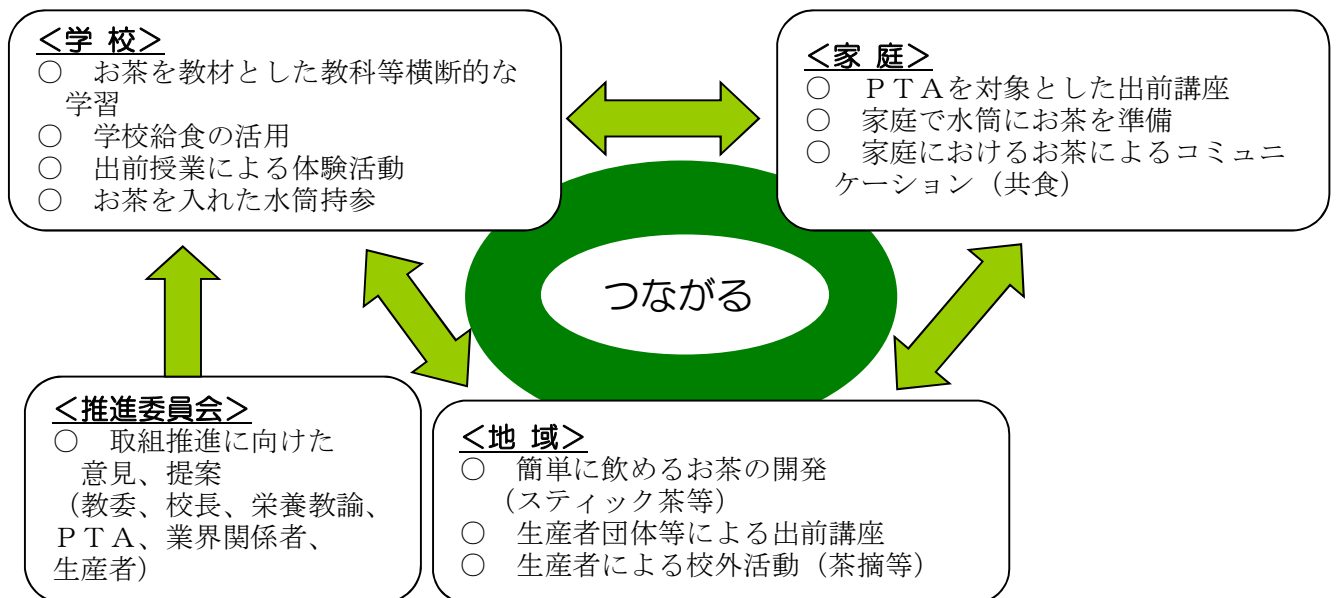


2019年度「つながる食育推進事業」成果報告書

受託者名	静岡県教育委員会
モデル校名称	裾野市立東小学校及び裾野市立富岡第一小学校
対象学年及び人数	裾野市立東小学校 : 全学年、625人 裾野市立富岡第一小学校 : 全学年、494人
栄養教諭等の配置	裾野市立東小学校 : 平成22年から栄養教諭が1人配置 裾野市立富岡第一小学校 : 平成30年から栄養教諭が1人配置

1 取組テーマ

静岡茶でつながる学校・家庭・地域の食育



2 推進委員会の構成

委員	山中 なほみ	裾野市立東小学校	校長
委員	山崎 南津代	裾野市立東小学校	栄養教諭
委員	米田 亜紀子	裾野市立東小学校	PTA 代表
委員	勝又 和仁	裾野市立富岡第一小学校	校長
委員	内田 鈴乃	裾野市立富岡第一小学校	栄養教諭
委員	眞田 修平	裾野市立富岡第一小学校	PTA 代表
委員	川波 正美	裾野市教育委員会	指導主事
委員	勝又 直美	(株)勝国製茶（茶生産者代表）	代表
委員	白鳥 克哉	県経済産業部お茶振興課	主査
委員	片井 祐介	県富士農林事務所企画経営課	主査
事務局	後藤 一弘	県教育委員会健康体育課	健康食育班長
事務局	渡邊 剛司	県教育委員会健康体育課	教育主査

3 連携機関及び連携内容

連携機関名	連携内容
県経済産業部お茶振興課、県東部農林事務所	茶生産者との連絡調整等
裾野市お茶生産者	体験活動受け入れ、講座の講師等
学校 PTA	学校と家庭との連携等
日本茶インストラクター協会静岡県支部	静岡茶出前講座の開催、茶器貸し出し等

4 取組前のモデル校の状況

<モデル地域・裾野市の状況>

- 朝食摂取率は高いが、食事内容、共食、食事マナーに課題（朝食摂取率 98%、栄養バランスのとれた朝食摂取 37%、朝食を子供だけで食べる割合 43%、食事の際のあいさつ 78%）
- 食育に関心はあるが家庭で取り組まれていない。（家庭で食育に関心がある割合 63%、栄養バランスに配慮 76%、大人の食事の際にあいさつ 44%）
- 農業が盛んで地域と連携した食農体験が行われている。（主な農産物はモロヘイヤ、いちご、米、茶等。地産地消へ関心がある割合 74%）
- 食育を通じた児童の正しい食生活を見直し、家庭における食事の環境づくりの支援が必要。
- 地域ぐるみで子供たちを育てる体制づくりが課題。

<モデル校の状況>

- 食育の指導体制は、食に関する指導の全体計画は整備されているものの、計画に沿って実践できていないところがある。
- 食育の評価方法は、授業等の実践後の児童の変容により評価は行っているものの、客観的な指標等による評価方法は確立されていない。

<モデル校の栄養教諭間の連携の状況>

- 月に約 1 回、市の栄養教諭や学校栄養職員等が集まって研修する市の栄養士会において、学校給食管理全般については協議しているが、食に関する指導に特化した協議の機会がない。
- 市内の栄養教諭が情報共有する機会はあるが、食育の実践内容及び回数は学校及び栄養教諭間に差があり、市内の児童に統一的な内容で指導を実施できていない。

5 評価指標の設定について

(1) 共通指標について

- ① 児童生徒、保護者の食育に関する意識に関すること
 - ア 朝食を食べることへの価値
 - イ 共食をすることへの価値
 - ウ 栄養バランスを考えた食事をとることへの価値
 - エ 食事マナーを身に付けることへの価値
 - オ 伝統的な食文化や行事食を学ぶことへの価値
 - カ 衛生管理の重要性について学ぶことへの価値

- ② 朝食を欠食する児童生徒の割合
 - ③ 児童生徒の共食の回数
 - ④ 栄養バランスを考えた食事をとっている児童生徒の割合
- ※ 共通指標は、児童生徒アンケートによって測定する。

(2) 独自指標について

- ① 児童生徒の食に関する自己管理能力の育成に関すること
 - ア 朝食をとっている割合
 - イ 栄養バランスのとれた朝食をとっている割合
 - ウ 朝食を大人と一緒に食べる割合
 - エ 裾野市でお茶を生産していることを知っている割合
 - オ 家で緑茶を毎日飲む・飲む日が多いの割合

※ 記述調査により評価
- ② 栄養教諭を中核とした全校体制による食育の指導・評価方法の開発に関すること
 - ア 学校評価の食に関する項目でAの割合

※ 学校評価により評価
- ③ 栄養教諭間の連携及び栄養教諭の研修に関すること
 - ア お茶を教材とした食に関する指導を実践した回数
 - イ 食に関する指導の全体計画への位置付け

※ 実践記録、食に関する指導の全体計画により評価

6 実践内容（評価指標を向上させるための仮説（筋道）を含めて）

静岡県では、小中学校の児童生徒の静岡茶の愛飲の促進に関する条例（以下「静岡茶愛飲促進条例」という。）を定め、静岡茶をツールとした食育を推進することにより、児童生徒の健全な心と体を培い、豊かな人間性を育むことを目指している。

静岡茶愛飲促進条例では、学校において、静岡茶を飲むこと、静岡茶を学ぶことを柱に掲げ、それを受け、県内の小中学校で様々な取組が行われている。地域により取組状況は異なり、いわゆる茶産地と呼ばれる地域では、茶畑のある風景が一般的で、伝統的にお茶に関する取組が行われているが、そうでない地域においては、地域に茶畑がなく、子供たちは静岡茶を身近に感じにくく、学校においては静岡茶の食育のイメージやその効果に対する理解を得にくい状況にあった。さらに、家庭でお茶を入れて飲む機会も少なく、急須が家庭にないといった状況も多く見られた。

そこで、2つの目標を掲げ、取組を行った。

- 静岡特産のお茶を飲み、お茶の味、機能性を学ぶことを通して、食に関する理解を深め、日常生活における実践力を身に付けるとともに、お茶の歴史、文化等を学ぶことで郷土への愛着を高める。
- 親も子も共に静岡茶について学び、家庭でお茶を飲むことで共食の機会を増やし、家庭の教育力を高める。

(1) 裾野市立東小学校の取組

ア 総合的な学習の時間

4年生では、栄養教諭、保護者と連携し、おいしいお茶の淹れ方教室、茶摘み体験、手もみ茶体験、茶道教室を、5年生では茶道教室、6年生ではキャリア教育の一環として日本茶インストラクターによる講話を行った。



おいしくなるように
おまじないをしよう！

これがお茶の葉なんだね！
たくさんとれたよ！



<おいしいお茶の淹れ方教室>

<茶摘み体験>



けっこう手間がかかるんだね。
どんどん葉の様子が変わって
いくね。

おじぎの仕方などの作法も
教えてもらったよ。



<手もみ茶体験>

<茶道教室>



お茶は、お湯の温度で
苦さが違うなんて初めて
知ったよ！

<日本茶インストラクターによる講話>

イ 家庭科

5年生で、加熱用調理器具を学ぶ際に栄養教諭によるお茶の淹れ方を体験、炊飯実習では栄養教諭、保護者が参画し、児童が炊飯したごはんの試食に合わせ、お茶を使った料理の試食を行った。



みんな同じ濃さ、味に
なるように廻し注ぎ！

子どもたちのために
がんばります！



<お茶の淹れ方体験>

<保護者と連携した炊飯実習>

ウ 家庭教育学級

学校と家庭をつなげるため、PTAの家庭教育学級において、製茶店主によるお茶に関する講話、お茶の淹れ方指導、お茶の料理教室、お茶生産者によるお茶の飲み比べ、冷茶づくり等を保護者が実際に体験し、学校の学びを家庭における実践につなげた。



エ 栄養教諭を中核とした全校体制による食育の指導・評価方法

食に関する指導の計画の作成・運営について、健康指導部会（毎月実施）を活用し、食に関する指導の月目標、行事等の資料を栄養教諭が配布し、各学年に伝達するとともに、食に関する指導の全体計画で予定している指導の時期が近づくと、栄養教諭が関係職員に声かけをして確実な実施に努めた。

評価については、学校評価を活用し、次の項目を取り入れた。

- 給食の時間を活用した食に関する指導やつながる食育の活動等により食に関する関心は高まっていますか。

(2) 裾野市立富岡第一小学校の取組

ア 総合的な学習の時間

3、4年生では、栄養教諭と連携し、茶摘み体験、手もみ茶体験、お茶の淹れ方体験、お茶に関する調べ学習等、お茶に関する様々な取組を行い、新聞等にまとめた。



こんなにたくさんの茶葉を摘むことができたよ！

自分で淹れるのは初めて！緊張するなあ。



<茶摘み体験>

<お茶の淹れ方体験>

イ 家庭科

5年生では、日本茶インストラクターを講師に、お茶について学び、お茶の淹れ方を体験した。



1煎目、2煎目、3煎目
いちばん好みの味はどれだろう。

ウ 社会科

4年生は社会科見学で、「ふじのくに茶の都ミュージアム」へ行き、お茶の歴史や栽培、製茶方法等について学び、総合的な学習の時間の学習と連携した。



いろいろなおいのお茶があったよ。

これもお茶の木なんだ！



エ 特別活動

4年生は、茶道の講師を招き、教室に畳や床の間を用意して、本格的な雰囲気の中で、お茶の作法や文化に触れる茶道体験を行った。



お茶のいただき方
茶室への入り方
お辞儀の仕方等
茶道の作法を
体験したよ。

オ 学校保健委員会

6年生、保護者、教職員を対象に、学校保健委員会「めざせ！お茶博士～お茶のヒミツを探る～」で、保健委員会による児童アンケートの報告、ふじのくに茶の都ミュージアム副館長、学校医及び学校歯科医によるお茶の健康効能等の講話が行われた。



保健委員会が
6年生の生活習慣や
普段飲む飲み物について
調べた結果を発表！

お茶博士を目指して
クイズに挑戦！



カ 児童会行事

児童会行事「富っ子のつどい」で、4年生が総合的な学習の時間で学んだお茶に関する事柄を、他学年の児童や保護者に伝えた。



勉強したことを
クイズにして家の人に
伝えるよ。

茶葉の重さの違いを
利用したゲーム。



キ 家庭教育学級

学校と家庭をつなげるため、PTAの家庭教育学級において、地域の製茶店主を講師に招き、親子でおいしいお茶の淹れ方を学び、実際に淹れ方を体験し、家庭での実践につなげた。



浅蒸し煎茶
深蒸し煎茶
茎茶など種類の
違いを親子で
味わいました。

ク 栄養教諭を中核とした全校体制による食育の指導・評価方法

食に関する指導の計画の作成・運営について、東小学校同様、指導部会（隔月実施）を活用し、食に関する指導の月目標、行事等の資料を栄養教諭が配布し、各学年に伝達するとともに、食に関する指導の全体計画で予定している指導の時期が近づくと、栄養教諭が関係職員に声かけをして確実な実施に努めた。

評価については、学校評価を活用し、2項目を設定して評価している。

- 給食時間において、食事のマナーを意識した指導や見届けができたか。
- 感謝して、残さず食べるように指導できたか。

(3) 栄養教諭間の連携及び栄養教諭の研修

ア 連携方法

共通教材の活用、市内の栄養教諭で共有しているフォルダの活用、市内栄養教諭等研修会の活用により連携を図った。

イ 両校で共有した指導

小学5年生の家庭科では、食育啓発リーフレット「朝ごはん食べていますか。」（静岡県教育委員会発行）を活用し、学級担任とのTTにより、五大栄養素や3つの食品のグループを学習するとともに、朝食指導を行った。学校給食では、静岡茶を使った料理のレシピを共有し、5月から1月にかけて、毎月献立に登場させた。冬季のインフルエンザ流行期に合わせて全校児童にスティック茶を配布し、学校で静岡茶を飲む機会を確保する際には、学級担任、養護教諭と連携し、お茶の健康効能等の講話を実施し、静岡茶を飲む習慣づくりのきっかけとした。その他、箸の使い方等の食事マナー、和食等、給食日より、給食の時間の放送原稿を共有した。



<朝食指導>



<静岡茶を使った献立>



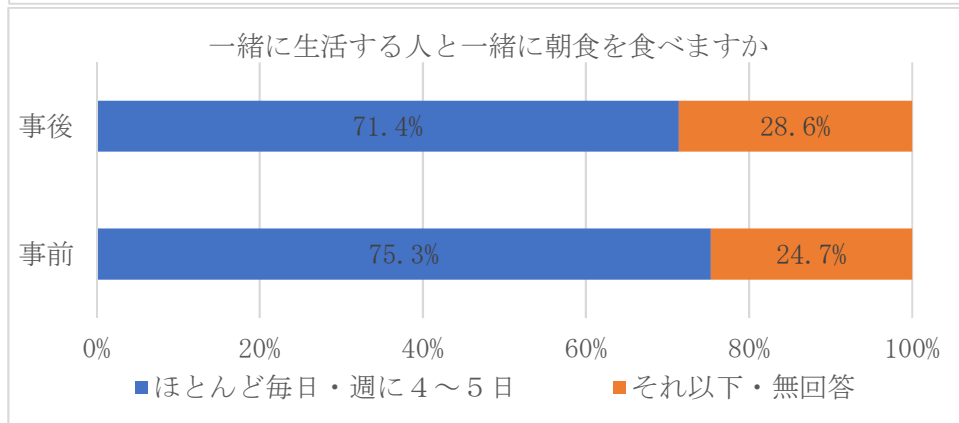
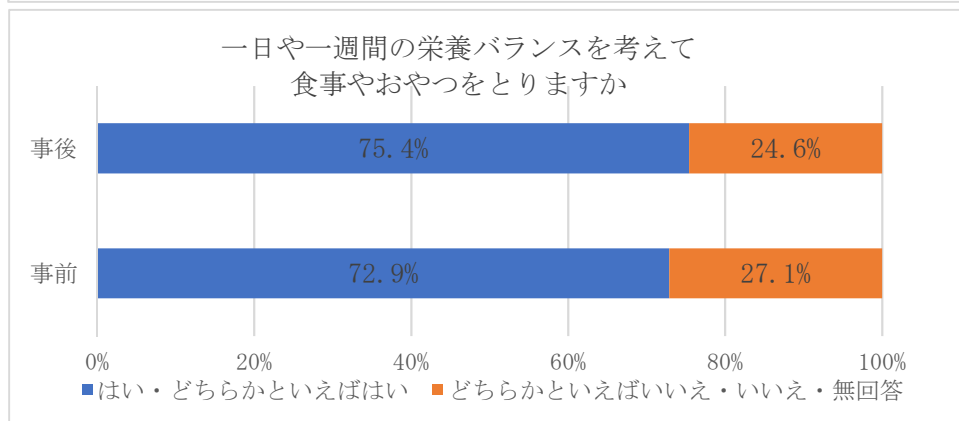
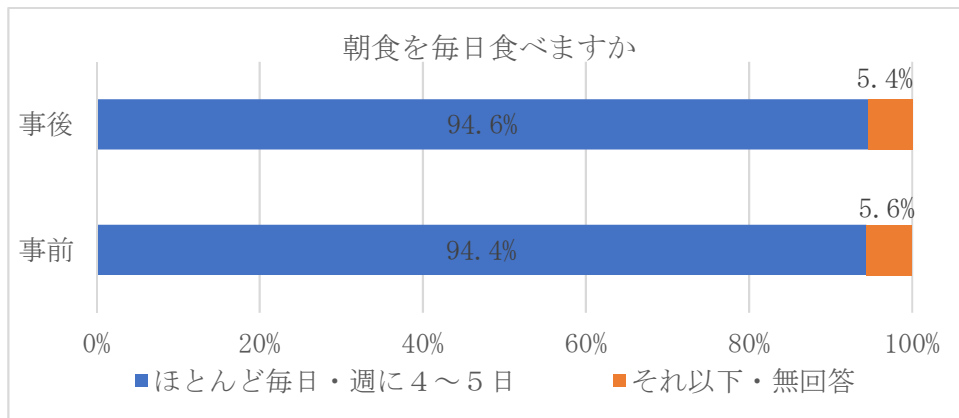
<スティック茶配布時の講話>

7 評価指標の測定結果

(1) 共通指標について

共通指標において、朝食摂取及び栄養バランスについて調査した結果は次のとおりである。朝食をほとんど毎日とる・週に4～5日とる割合は、94.4%から94.6%、一日や一週間の栄養バランスを考えて食事やおやつをとる・どちらかといえばとる割合は72.9%から75.4%、一緒に生活する人と一緒に朝食をほとんど毎日・週に4～5日とる割合は、75.3%から71.4%となった。

調査内容	事前	事後	増減
朝食をほとんど毎日・週に4～5日とる割合。	94.4%	94.6%	0.2%
一日や一週間の栄養バランスを考えて食事やおやつをとる・どちらかといえばとる割合。	72.9%	75.4%	2.5%
一緒に生活する人と一緒に朝食をほとんど毎日・週に4～5日とる割合。	75.3%	71.4%	-3.9%

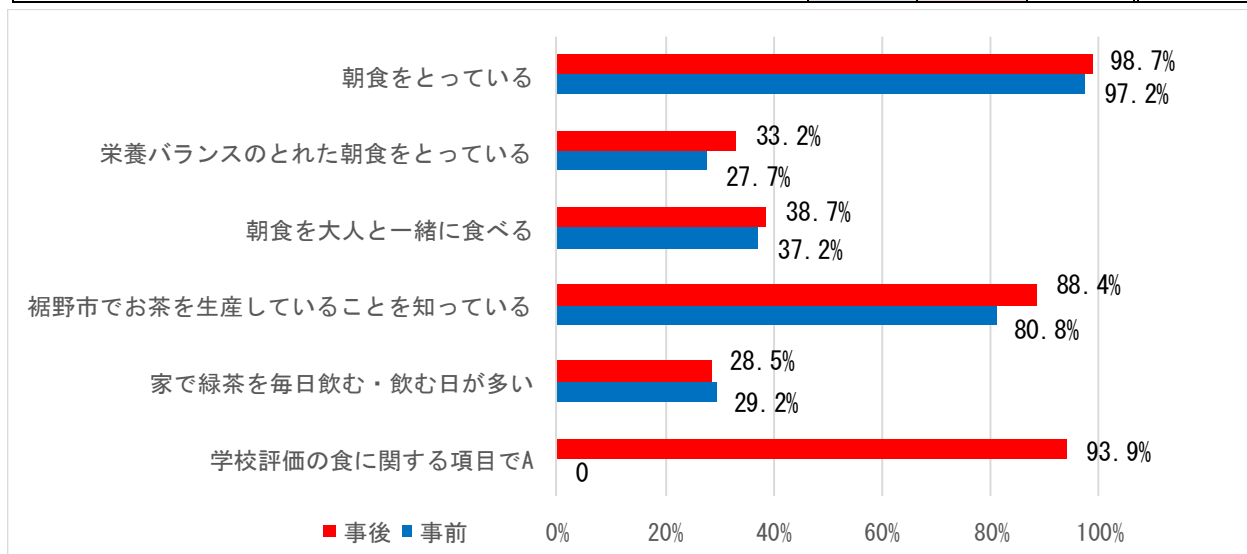


(2) 独自指標について

ア 裾野市立東小学校の取組結果

事前と事後の調査結果を比較すると、朝食をとっている割合は1.5%、栄養バランスのとれた朝食をとっている割合は5.5%、朝食を大人と一緒に食べる割合は1.5%、裾野市でお茶を生産していることを知っている割合は7.6%増加した。他方、家で緑茶を毎日飲む・飲む日が多い割合は0.7%減少した。しかし、家で緑茶を飲む調査結果の内訳をみると、緑茶を毎日飲む割合は14.6%から14.8%（+0.2%）となり、毎日の習慣としてお茶を飲む家庭が増加した。また、ほとんど飲まない割合は43.2%から40.0%（-3.2%）となり、まったくお茶を飲まなかった家庭が、家庭でお茶を飲むようになり、全体的に飲む機会は増加傾向にある。なお、学校評価の食に関する項目でAの割合については、今年度、評価項目を変更したため、比較はできない。

評価指標	事前	事後	増減	目標
朝食をとっている割合	97.2%	98.7%	1.5%	100%
栄養バランスのとれた朝食をとっている割合	27.7%	33.2%	5.5%	60%
朝食を大人と一緒に食べる割合	37.2%	38.7%	1.5%	55%
裾野市でお茶を生産していることを知っている割合	80.8%	88.4%	7.6%	90%
家で緑茶を毎日飲む・飲む日が多い割合	29.2%	28.5%	-0.7%	75%
学校評価の食に関する項目でAの割合	-	93.9%	-	前年度以上

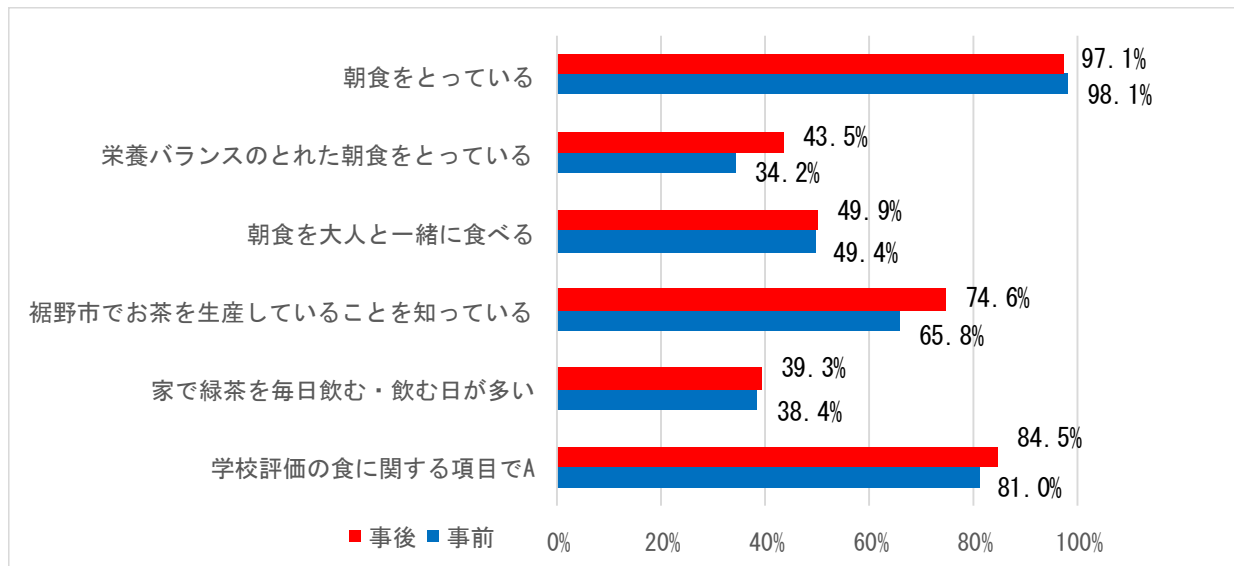


イ 裾野市立富岡第一小学校の取組結果

事前と事後の調査結果を比較すると、栄養バランスのとれた朝食をとっている割合は9.3%、朝食を大人と一緒に食べる割合は0.5%、裾野市でお茶を生産していることを知っている割合は8.8%、家で緑茶を毎日飲む・飲む日が多い割合は0.9%、学校評価の食に関する項目でAの割合は3.5%増加したが、朝食をとっている割合は1.0%減少した。家で緑茶を飲む調査結果の内訳をみると、緑茶を毎日飲む割合は21.0%から22.2%（+1.2%）、ほとんど飲まない割合は39.6%から34.5%（-5.1%）であり、裾野市立東小学校同様、家庭でお茶を飲む機会は増加傾向にある。なお、学校評価の食に関する項目でAの割合の事前は、昨年度の評価とする。

評価指標	事前	事後	増減	目標
朝食をとっている割合	98.1%	97.1%	-1.0%	100%
栄養バランスのとれた朝食をとっている割合	34.2%	43.5%	9.3%	60%
朝食を大人と一緒に食べる割合	49.4%	49.9%	0.5%	55%
裾野市でお茶を生産していることを知っている割合	65.8%	74.6%	8.8%	90%
家で緑茶を毎日飲む・飲む日が多い割合	38.4%	39.3%	0.9%	75%
学校評価の食に関する項目でAの割合	81.0%	84.5%	3.5%	前年度以上

※事前調査は6月、事後調査は12月に実施。



ウ 栄養教諭間の連携及び栄養教諭の研修の取組結果

モデル校の栄養教諭間で連携して、各校においてお茶を教材とした食に関する指導を行った。家庭科や総合的な学習の時間において、お茶を淹れる体験学習を学級担任等とTTで実施した。給食の時間において、学校給食の献立にお茶を食材として使用し、給食時間の放送を活用してお茶の文化や健康効能を啓発するとともに、栄養教諭が直接学級を訪問して指導した。その他、総合的な学習の時間に実施した茶道教室等の企画及び運営に参画し、前年度以上にお茶を教材とした食に関する指導を実施した。

今年度実施した指導内容の中で、家庭科（加熱用調理器具の安全な取扱い）においては次年度の食に関する指導の全体計画に位置付け、社会科（地域学習）や総合的な学習の時間においては、学校長や担当学年主任等と調整を図り、位置付けられるように働きかけている。

評価指標	事前	事後	目標
お茶を教材とした食に関する指導の実践回数	0回	複数回実施	前年度以上
食に関する指導の全体計画への位置付け	なし	あり	位置付ける

8 成果と課題

(1) 共通指標について

- 朝食摂取状況について、各校の栄養教諭が朝食啓発リーフレットを活用した朝食指導、給食

だより等により啓発したことにより、朝食をほとんど毎日、週に4～5日とる割合が94.4%から94.6%と増加したと考えられる。

- 一日や一週間の栄養バランスを考えて食事やおやつをとる・どちらかといえばとる割合が72.9%から75.4%に増加したことについては、栄養教諭による家庭科における朝食指導、日々の学校給食を生きた教材として活用した指導の成果によるものと考えられる。
- 一緒に生活する人と一緒に朝食をほとんど毎日とる・週に4～5日とる割合が75.3%から71.4%へ減少したことについては、朝食指導や給食の時間における指導等で食事内容に重点を置いた指導となっており、家族との共食は講話の中で少し触れる程度となっていたためと考えられる。今後は、家族との共食を改善する指導について工夫する必要がある。

(2) 独自指標について

- 各校学校において、体育科、家庭科、総合的な学習の時間等にお茶をツールとして食に関する指導に取り組み、また、栄養教諭が専門性を活かして、朝食指導、給食の時間における指導(食事のマナー等)、給食だよりの配布等を行い、評価指標の改善を図った。さらに、学校でお茶を飲む機会を冬季に設定し、学びの定着を図った。評価指標の目標値に達することはできなかったが、多くの項目において、事前結果の数値より改善した。(東小:6項目中4項目、富岡第一小:6項目中5項目) 評価指標の数値は長期目標であり、短期及び中期目標の数値を設定する等の改善が必要である。
- 東小学校では、特に家庭とのつながりに成果があった。PTAの家庭教育学級でお茶に関する講座を開催することで保護者の意識を高めることができた。そこでの学びを家庭で実践するだけでなく、総合的な学習の時間ではお茶の淹れ方、家庭科では調理実習に参画し、学級担任や栄養教諭を支援していた。

課題としては、家庭教育学級に参加する保護者は、もとより学校への関心が高く、協力的な保護者が多いため、学びのつながりを広げることができたが、そうでない家庭とつながりを強くすることが継続及び発展のカギであり、その工夫が求められる。
- 富岡第一小学校では、特に地域とのつながりに成果があった。地域の茶畑を学びの場として提供してもらい、そのお茶を使った手揉み茶体験、給食の時間における冷茶の提供等、行うことができ、今後も継続して取り組む体制が整った。

課題としては、当校の校区は、自分の家庭で飲む分の茶葉は、所有する茶畑で賄っている家庭があり、お茶が身近なものとなっているため、学校で教材として扱うには工夫が必要であり、栄養教諭による魅力的な教材の開発が期待される。
- 栄養教諭間の連携及び栄養教諭の研修においては、モデル校の栄養教諭は、お茶の文化、歴史、健康効能、栄養成分等の知識だけでなく、お茶の淹れ方を指導できるスキルを獲得するため、日本茶アドバイザーの資格を取得し、積極的に栄養教諭としての資質向上に努めることができた。

学校の食育は、栄養教諭が中核となって行われるものであり、お茶の食育を推進するために

は、栄養教諭の活躍が必須である。モデル校の栄養教諭はその役割を担うことを自覚し、意欲的に自らの資質向上に努めた。また、校内職員とのつながりを強くするため、校内指導部会への参画、給食の時間の学級訪問、授業前の綿密な打ち合わせ等、積極的に関わり、食に関する指導の校内体制の整備を図っていた。

課題としては、本事業で得た協力体制を維持するために、より実効性のある食に関する指導の全体計画の作成及び運営等の検討が必要であり、校内及び市教育委員会担当者と協力してその資質向上を図るための研修体制を整備することが必要である。

9 情報発信と普及の計画

- 学校のブログで活動や情報を紹介（随時）。
- 県教育委員会教育広報誌「E ジャーナルしずおか」で紹介。
- 月刊「茶」で紹介。
- 報告書を作成し、全都道府県教育委員会、静岡県内市町教育委員会、公立小中学校、県立中学校、県立特別支援学校、県庁関係課、共同調理場等に配布。また、静岡県教育委員会のHPに掲載。
- 県教育委員会主催の研修会で実践発表予定。